

令和7年度 新潟市精神保健福祉審議会 会議概要

開催日時	令和8年1月19日（月） 午後2時～午後4時
会場	新潟市総合保健医療センター 2階 講堂
出席委員	秋庭委員、五十嵐委員、栗原委員、染矢委員、坪谷委員、藤沢委員、松本委員、村山委員、山田委員、横堀委員、若穂岡委員、渡邊委員、和知委員 (出席13名, 欠席3名)
事務局	保健衛生部長、保健所長、こころの健康センター所長、こころの健康センター所長補佐、こころの健康センターいのちの支援室長、こころの健康センター係長、障がい福祉課長
傍聴者	なし
内容	<p>【議事】</p> <p>(1) 精神障がい者地域移行・地域定着支援事業 ○事務局より資料1・資料1-1に基づき、「にも包括」の3つのワーキンググループ（人材育成、ピア活動、企画・調査）の活動および「心のサポーター養成研修」の実績（今年度93名養成）について説明した。</p> <p>(2) 「みんなの居場所づくり」ワークショップについて ○事務局より資料1・資料1-1に基づき、西区で実施しているインクルージョンの視点を持った居場所づくりのワークショップ（全6回）について説明した。</p> <p>○委員からの意見・質問 <秋庭委員> 喫茶店方式の居場所運営の経験から、当事者の「前向きな言葉」を大切にすべきである。南区での17年にわたるボランティア育成（現在42名）の継続や、他区への展開を要望した。</p> <p><渡邊委員> 参加者がそれぞれの立場の前に、一個人としてその場にいること、対話を通じて感じ方を共有できる場であることを大切にしてほしい。</p> <p><坪谷委員> 家族としては地域に迷惑をかけないか不安もあり、地域住民の理解促進が不可欠。また、居場所の先にある「住まい」の確保という高いハードルについても、障がい福祉分野と連携して取り組むべきである。 ⇒事務局：一人ひとりの思いを大切にしつつ、障がい福祉分野と連携し、住まいと居場所の両面から対策を検討したい。</p>

(3) 入院者訪問支援事業について

○事務局より資料1・資料1-1に基づき、市長同意による医療保護入院者を対象とした訪問支援の実績(12月に3件)および来年度の目標(年36回派遣)について報告した。

○委員からの意見・質問

<若穂副会長>

外部の目が入ることは病院にとって刺激になり、誤解も解けるため非常に良い。今後は、家族がいても疎遠な患者などへの対象拡大も検討してほしい。

<五十嵐委員>

始まったばかりの制度であり、病院職員もイメージが湧きにくい面があるため、必要なタイミングで繰り返し説明することが重要である。

【報告】

(1) ひきこもり支援事業について

○資料2に基づき、相談延件数が約1,700件で推移していることや、各区への後方支援体制へのシフト、多職種チームの本格稼働について説明した。

○委員からの意見・質問

<坪谷委員>

近隣のひきこもり家族はどこにも助けを求められず孤立している。相談しても解決に繋がらないと感じている層への対策はどうか。

<秋庭委員>

本人への接触は難しく、家族全体が頭がいっぱいになる。家族会との連携を含め、周りの人々を助ける支援も必要である。

<渡邊委員>

自身が外に出られなかった際、顔の見えないネットの関係に救われた。外からの働きかけが負担になる時期もあり、支援の難しさを感じる。

(2) 精神科病院における虐待防止対策事業について

○資料3に基づき、通報5件・届出6件のうち1件を事実認定(経済的虐待)したこと、および職員のストレス対策等の課題について説明した。

○委員からの意見・質問

<渡邊委員>

通報者等への聞き取りにおいて、相手に寄り添った丁寧な対応がなされていると感じる。

<若穂副会長>

虐待の背景には職員のゆとりのなさが影響している。外部の目や通報制度により実態を把握することは大切だが、潜在的な件数はもっと多いのではないか。

(3) 自殺総合対策事業について

○資料4に基づき、本市の自殺死亡率が16.3%（政令市中9位）であることや、教職員向け「IDOBATAプログラム」の実施状況等を報告した。

○委員からの意見・質問

<若穂副会長>

過去10年の減少傾向が停滞していることに悩みを感じる。人と人の繋がりを強化し、自分から助けを求めやすい仕組みを増やすべきである。

<村山委員>

相談者の多くが医療機関か電話相談以外に繋がれる場がない。居場所づくりワークショップのような取り組みは、孤独を防ぐ自殺対策として非常に有効である。

(4) その他の精神保健福祉施策について

○資料5に基づき、依存症対策、措置入院、法改正に伴う精神医療審査会の書類審査件数増（半年で1,340件）等について説明した。

○委員からの意見・質問

<若穂委員>

依存症治療において、断酒だけでなく「減酒（ハームリダクション）」という早期介入の考え方が広まっていることを周知して欲しい。

【その他】

○事務局より、委員の任期満了（令和8年3月24日）および染矢会長への謝辞、次年度の日程等についてアナウンスがあった。